

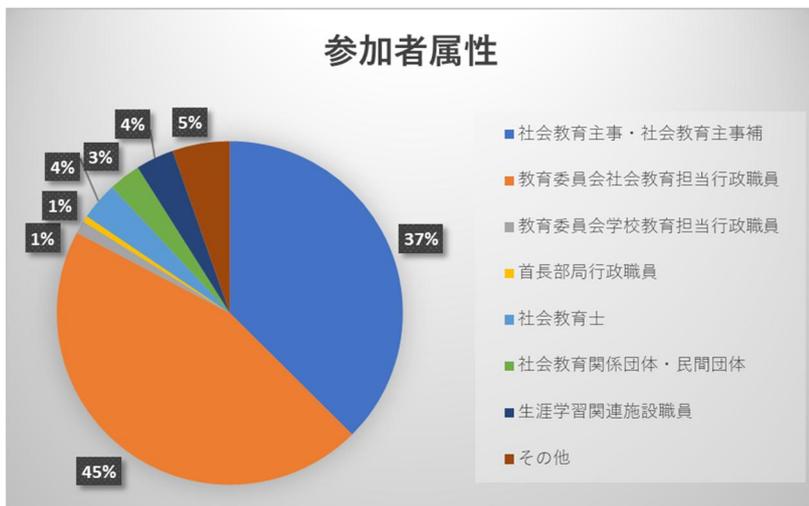
令和7年度（2025年度）地域生涯学習活動実践交流セミナー 事業報告書

研究テーマ

「持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」

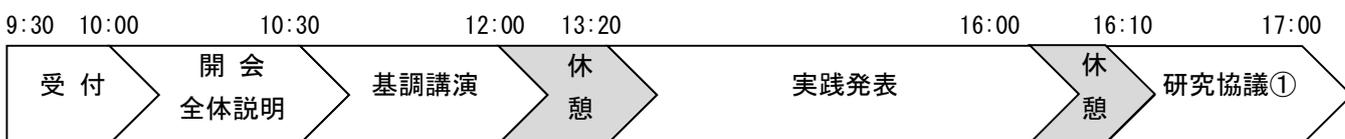
事業の内容

- 1 日時 令和8年2月26日（木）27日（金）
- 2 場所 道民活動センターかでの2・7
オンライン配信（基調講演のみ）
※Web会議システム zoom
- 3 参加者 168名

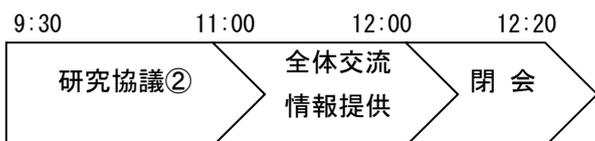


I プログラム

<1日目>



<2日目>



【基調講演】

<p>「多様な連携から広がる地域づくりと 社会教育主事の役割」</p>	<p>【内容】 講師自身の社会教育主事としての経験をもとに、北広島市のまちづくりについて学んだ。特に、北広島市のまちづくりと社会教育実践のつながりや、社会教育主事として何を大切にしていけることが、多様な連携先とのトータルウィンや、個々のウェルビーイングの実現に向かうのかについて理解を深めた。</p>
<p>【講師】 北広島市教育委員会教育長 吉田智樹氏</p>	

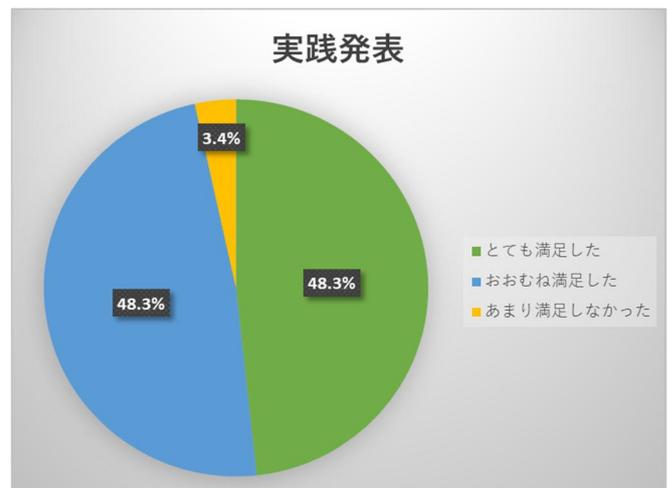
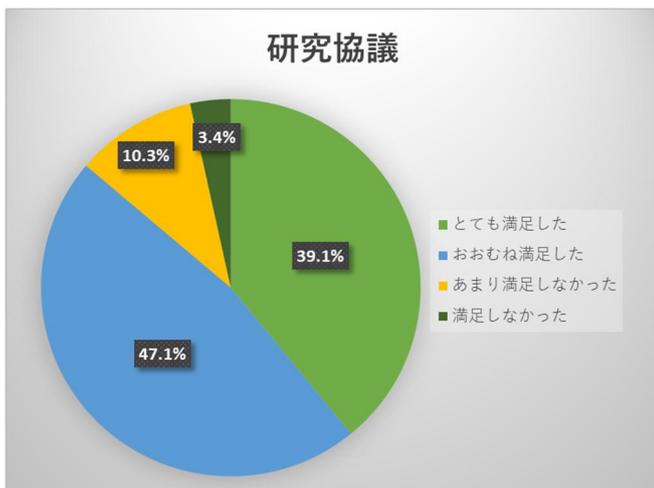
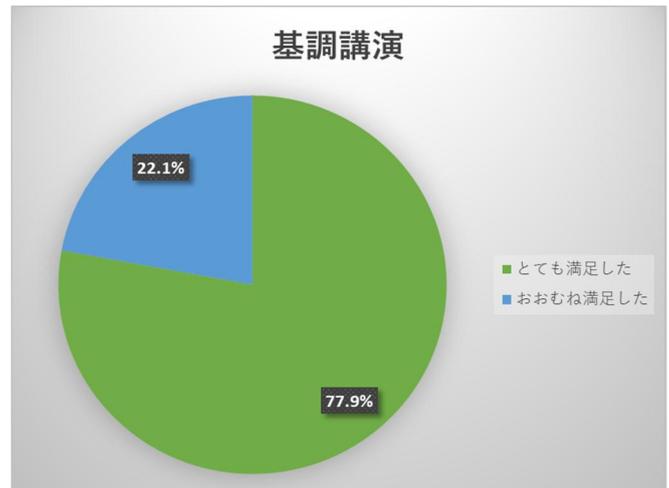
【実践発表】

<p>空知管内 「多世代の「架け橋」が創る、 持続可能な社会教育のカタチ」 北竜町教育委員会 岸 直 樹</p>	<p>【内容】 事例として、北竜町の「子どもと高齢者のふれあい事業」について紹介した。持続可能な社会には、多世代の関わりが必要であり、「育てるのではなく育つような仕組み」が重要であるとした。</p>
<p>石狩管内 「地域をつくる一流のマーケティング」 石狩市教育委員会 藤 田 蓮 飛</p>	<p>【内容】 「社会教育ならではの価値」を整理し、マーケティングの視点を社会教育に転用することで、対象者に応じた行動変容に、論理的にアプローチできるとした。</p>
<p>後志管内 「後志管内のコミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の実際」 ～管内の現状を切り口に社会教育行政の携わり方を探る～ 寿都町教育委員会 浦 中 龍 一</p>	<p>【内容】 コミュニティ・スクールにおける社会教育行政の関わり方をテーマに管内研修を行った。コミュニティ・スクールは、地域づくりや成人教育の側面を持つとし、学校支援という一方通行ではなく、人のために何かするというサイクルを循環する後押しをしていくことが必要であるとした。</p>
<p>胆振管内 「社会教育の実践 × なんかいいい感じ」 白老町教育委員会 山 口 恒</p>	<p>【内容】 社会教育事業の課題の一つである「学習成果の可視化の難しさ」について着目した。アンケートを用いて事業前後の気持ちの変化を分析した。</p>
<p>日高管内 「青少年体験活動推進事業 ひだか未来塾」 ～障がいのあるなしに関わらず共生する社会づくり～ 浦河町教育委員会 小 田 卓 朗 様似町教育委員会 新 出 拓 海</p>	<p>【内容】 日高管内の中学生と高校生を対象とした研修事業「ひだか未来塾」を紹介し、研修会テーマに応じた運営の工夫についてなど運営者の視点についても発表があった。</p>
<p>渡島管内 「多様性を認め合う社会教育」 ～”部活が変わる”から”放課後が変わる”へ～ 木古内町教育委員会 太 田 本 気</p>	<p>【内容】 サブテーマを「1UP 渡島 多様性を認め合う社会教育」として研修を行い、障がい者の生涯学習に対する理解を深めた。木古内町では、多様な子どもたちに対し、放課後の居場所づくり事業を進めると報告があった。</p>
<p>檜山管内 「第1回 ひやまをつなごう」 乙部町教育委員会 南 部 涼</p>	<p>【内容】 事前学習と現地学習を行うことで自分たちで考えた地域課題と照らし合せ、自分事として捉えるきっかけとした。</p>
<p>上川管内 「多様な主体とのつながりから生まれる 社会教育の可能性」 当麻町教育委員会 生 田 花 織</p>	<p>【内容】 年間通した研修で、行政以外の多様な社会教育人材から社会教育を新しい視点で捉え直し、行政以外の視点を取り入れた社会教育に可能性を見出した。</p>
<p>留萌管内 「社会教育担当職員に必要な 知識・技能習得に向けた取組について」 小平町教育委員会 高 松 雅 人</p>	<p>【内容】 留萌管内の実情を踏まえたうえで、「主事会が持続可能な研究活動を行うための土台づくり」を目標に設定、社会教育主事と社会教育担当者の資質向上を図った。</p>
<p>宗谷管内 「人と人をつなぐオモシロい社会教育を探る」 稚内市教育委員会 小 野 壮 一</p>	<p>【内容】 地域の可能性を引き出す視点として「人と人をつなぐ」、「オモシロい」の二つが必要であるとし、課題感等を共有し、今後の事業精査や展開の紹介があった。</p>

<p>オホーツク管内 「インクルーシブスポーツ・モルック」 ～前年度の取組からその後～ 大空町教育委員会 松本 晃</p>	<p>【内容】 モルックが、小さい子から高齢者までが一緒に楽しめることに注目した。地域団体等と連携し、人員や経費の課題を乗り越え、参加型事業の活性化に取り組んでいった。</p>
<p>十勝管内 世代をつなぐ体験活動「あつまれ！銀河キッズ」 における持続可能な学び環境の創出 本別町教育委員会 石田 幸成</p>	<p>【内容】 三町の共通課題である少子化、不安定な事業基盤、職員のスキルが不足している現状を踏まえた三町連携事業について紹介があった。ジュニアリーダーへの関わり方工夫することで、社会教育人材の育成を図っている。</p>
<p>釧路管内 「アドベンチャースクールを通じた地域の人材育成」 標茶町教育委員会 秋山 爽</p>	<p>【内容】 自然体験を中心とした事業を愛着へ活動方針を変換し、「学ばせる」から「学ばさる」体験を意識し、循環する人材育成モデルへと変えていった。元受講生が、20歳のつどいの担い手になるなど、事業成果が広がりつつある。</p>
<p>根室管内 「持続可能な社会を目指す社会教育の実践」 — 別海町ジュニアハローワーク — 別海町教育委員会 山岸 郁美</p>	<p>【内容】 ふるさとキャリア教育である「別海町ジュニアハローワーク」の紹介があり、地域とともに活動することで、地域や自分の未来について考えるようになる様子がみられた。</p>

Ⅱ アンケート結果

1 満足度 (n=87)



Ⅲ 参加者の声

○基調講演、実践発表、研究協議、全体を通して（自由記述、一部抜粋）

- ・ 覚悟や強い思いがあるのは、大切だが、より大切なのはその思いの根底にある価値観を、協力する相手と分かち合うことがより重要と感じました。
- ・ 居心地の悪いところで何ができるか考えることが、社会教育主事の役割とお話しており、まさにその通りだと思いました。
- ・ 提示していただいた民間との連携のキーワードは、自治体職員として働く上でとても重要なものなのでしっかりと胸に刻んでおこうと思いました。
- ・ 官民連携は対等な関係を築けるかどうかが大変というのが印象に残りました。
- ・ 社会教育主事の役割を首長に認識してもらうことが、より必要性を見せることにつながるということが分かった。
- ・ ウィンウィンではなくトータルウィンという言葉が心に響きました。
- ・ ボールパーク誘致に社会教育がどう関わっていったのかを知れました。
- ・ 様々な取り組みを聞かせていただき、元気をもらうとともに、自町に持ち帰っての参考にさせてもらおうと思いました。
- ・ 自分が楽しむことで事業展開に繋げて協会や大会を開けるようになったのはすごいことだなと思いました。インクルーシブスポーツは今後の生涯学習において大事だと思うので、自分の町に持ち帰りたいと思いました。
- ・ マーケティングを社会教育で活用することは非常に大切だと感じました。どの管内の取組も勉強になりました。
- ・ 子どもを軸にした活動が多いことに気がついた。まちづくりは子どもを育むことが重要だと感じました。
- ・ 学校にフリースクールが存在することが稀なことであると思いますが、どの学校もそうすればいいのにも思いました。アドベンチャースクールでの学びの循環は、私たちも意識しなければと思いました。共生社会はどの地域でも目指していかなければならないと思いますので、微力ながら私たちも何か事業で寄与します。社会教育とマーケティングはちょっぴり目から鱗で学びになりました。
- ・ 社会教育士としての視点で、自事業の展開を考える良い機会になりました。理想の未来像から考えた時に、最大の目標は「地域の人と繋がりあい、信頼関係の元、情報交換や力を借りることができる関係になる」ことがイメージできました。
- ・ グループディスカッションは他の自治体の方とより深度のある話が出るため良い時間となりました。企画、参加者の集客などの様々な手法を学びました。
- ・ 違う地域の方の話を聞いて、そのやり方がいいね！っていうことがたくさんありました。同じ悩みを抱えていることも改めてわかり、こうしたらいいかななど、グループで話し合う時間はとても楽しいものでした。

Ⅳ 担当者からひとこと

基調講演では、講師の経験に基づくお話を通して、1つ1つの取組に対し、数多くの努力と苦労があったことに触れながら、テーマにつながる今後の方向性についても示唆していただきました。連携の土台として、相手との価値観の共有により、アイデアを創出していくことや、トライ＆エラーを繰り返し目標と手法を修正しながら結果的に目的に向かっていく考え方など、新たな視点で自己の取組を見直す機会にもつながりました。

また、研究協議では、基調講演や各地域の魅力的な実践発表を踏まえつつ、次年度の取組について、具体的な見通しをもつため、社会教育士の方を交えながら、広い視点で検討しました。研究協議の記述を整理した別紙資料も参考にいただき、次年度の各地域における社会教育事業に生かしていただけましたら幸いです。